

2015(平成27)年度決算について

学校法人 桃山学院
理事長 出田善蔵

2015(平成27)年度学校法人桃山学院の決算は、監査法人ならびに監事の監査を経たうえで、2016年5月24日(火)開催の理事会で承認されました。ここに決算概要の説明と決算諸表の公開を以下のとおり行ないます。

[決 算 概 要]

(1)資金収支計算書

資金収支計算書は、年度の諸活動に対応するすべての資金収入と資金支出の内容を明らかにするとともに、支払資金の顛末も明らかにする書類です。ここでは、予算額との比較で説明します。

2015年度の決算は、収入の部合計で1億1,275万円増加の181億1,157万円となりました。これは主に、補助金収入、手数料収入(入学検定料)、前受金収入(主に入学金)、およびその他の収入(長期貸付金の回収収入など)の増加によるものです。

一方、支出の部では、人件費の見直しに加え、経常費の節減により教育研究経費支出、管理経費支出などが減少し、翌年度繰越支払資金を除く支出合計では2億9,244万円の減少となりました。

このように収入増、支出減の結果、翌年度繰越支払資金は4億518万円増加の66億7,919万円となりました。

(2)事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、年度の教育活動、教育活動以外の経常的な活動、それ以外の活動に対応する事業活動収入と事業活動支出の内容を明らかにし、事業活動収支の均衡の状態(経営状態)をあらわす書類です。計算技術的には、企業会計の損益計算書とよく似ています。ここでは、予算額との比較で説明します。

まず事業活動収入計(旧帰属収入合計)においては、8,469万円増加の105億6,877万円となりました。これは主に経常費等補助金、手数料、その他の特別収入(施設設備補助金)の増加によるものです。

事業活動支出計につきましては、学舎の改修に伴う旧施設の除却による資産処分差額が増加した以外は、人件費をはじめとする他の科目においては減少し、合計で112億3,970万円となり、1億9,967万円減少しました。

なお、本年度は建物、構築物、車両について、従来の残存価額(取得価額の10%)から残存価額0円(備忘価額1,000円)まで償却する変更をしたことによって、過年度に耐用年数の満了を迎えた資産について、2015年度に一括して減価償却を実施しました。これにより、減価償却額がこれまでの方法より11億3142万円増加し、また、白浜セミナーハウスの売却による資産処分差額(1億3,826万円)も加わって大幅な支出超過となりました。

この結果、基本金組入前当年度収支差額(旧帰属収支差額)につきましては、2億8,436万円増加の6億7,094万円の支出超過となり、事業活動収支差額比率(旧帰属収支差額比率)は2.76ポイント増の6.35%となりました。

基本金組入額につきましては、1,119万円増加の7億8,172万円となりました。その中身につきましては、図書や備品関係といった恒常的な取得資産の他に、介護福祉実習棟の建設、魅力ある和泉キャンパス創りに基づく聖バルナバ館3階食堂等の改修、高校のプール屋内温水化工事及び第2号基本金への組入れに関するものがあります。

7億8,172万円の基本金組入れと残存価額見直しによる大幅な支出超過により、当年度収支差額は14億5,266万円の支出超過となり、加えて基本金について過年度からの繰延高等計1億116万円を取り崩したことにより、翌年度繰越収支差額は23億9,816万円となりました。

(3)貸借対照表

貸借対照表は期末における学院の財政状態を示します。ここでは、前年度決算額との比較で説明します。

まず資産の部ですが、有形固定資産では、高校プール屋内温水化工事等の設備投資があったものの、建物、構築物、車両について、従来の残存価額(取得価額の10%)から残存価額0円(備忘価額1,000円)まで償却する変更をしたことにより、減価償却等をふまえた資産の減少は15億6,506万円となりました。特定資産では減価償却引当特定資産の積立等により5億円の増加となりました。その他の固定資産では長期貸付金の減少などにより8,639万円減少し、結果、固定資産は11億5,145万円の減少となりました。

流動資産では現金預金の増などにより、合計で2億7,614万円の増加となりました。これらの結果、総資産額は、8億7,532万円減少の826億1,167万円となりました。

次に負債の部では、固定負債における退職給与引当金の減少や長期未払金(リース債務)の減少に加え、流動負債における前受金や未払金の減少などにより、負債合計で2億438万円の減少となりました。

したがって、純資産額は2014年度末に比して、6億7,094万円減少の776億5,201万円となり、総資産額に占める割合は94.0%となりました。

なお、各々の科目の数値等につきましては別掲「各種計算書類」を、上記財務3表における実績ベースでの経年の概況・比較につきましては決算経年推移資料をご覧ください。

以 上

2015年度 資金収支計算書
2015年度 事業活動収支計算書
2015年度 資金収支・事業活動収支内訳表
2015年度 貸借対照表
2015年度 財産目録総括表
2015年度 収益事業部決算報告
決算経年推移資料